

あとがき

瀬戸内海に流入する最大の一級河川である淀川の源流は一体どこだろうか？大阪湾から淀川を遡り、宇治川・瀬田川を経て琵琶湖に至れば、そこには野洲川、愛知川、姉川、安曇川などの119本ある一級河川を含めて大小様々な約460の河川が流入している。その最も北にあり、恐らくほとんどの読者にとっては耳慣れない「高時川」の最上流に「源流の碑」がある。

ここを起点に下ると、上・中流域には支川の丹生川・杉野川を含めた豊かな自然と景観が広がり、中・下流には、菅原道真ゆかりの菅山寺、観音の里、芳州庵など名所・旧跡に事欠かない。本リーフレットでは、高時川下流に隣接する余呉湖とその周辺も含めて紹介したが、ここもまた自然と文化と歴史の見どころがひしめいている。一日ではとても回りきれない広さではあるが、読者それぞれの興味と関心にあわせてじっくり歩いて頂きたい。

(公社) 日本水環境学会関西支部川部会／駒井 幸雄・國松 孝男

参考文献

- ・近江地方史研究会・木村至宏編(1993)近江の川, 253pp, 東方出版, 大阪.
 - ・竹林征三(1999)「水のみち」近江一水の散歩道, 251pp, サンライズ出版, 滋賀.
 - ・長浜市観光協会資料.
 - ・滋賀県琵琶湖環境科学研究所「水質モニタリング調査」 http://www.lberi.jp/root/jp/22db/suisitu/bkjhsuisitu_top.htm
 - ・滋賀県「余呉湖」 <http://www.pref.shiga.jp/h/kasen/dam/yogoko.html>
 - ・琵琶湖市民大学 <http://www.hyogokankyo-lab.com/biwako/index.html>
 - ・水資源機構丹生ダム建設所「高時川等における水質データ」 <http://www.water.go.jp/kansai/niu/html/wquality/waterquality.html>
- [写真提供]
- ・滋賀県(菅山寺ケヤキ、余呉湖)
 - ・公益社団法人びわこビザーズピューロー(雨森芳州の像、賤ヶ岳武将の像)
 - ・余呉町観光協会(菅原道真11歳の稚児天神像)

既刊の紹介

- | | |
|--------------|---|
| ・源流を行く編 | 『名張川』(2013)『木津川上流』(2013) |
| ・おうみの川編 | 『赤野井湾と流入河川』(2013) |
| ・みやびな川編 | 『白川』(2010)『鶴川・明神川』(2012)『琵琶湖疏水』(2013) |
| ・歴史とロマンの川編 | 『瀬田川・宇治川』(2010)『保津川・桂川』(2011)『芥川』(2011)『猪名川』(2013) |
| ・なにわの川・庶民の川編 | 『東横堀川・道頓堀川』(2011)『恩智川・生駒の川』(2012)『中河内の川』(2013)
『大川と大阪市内河川』(2013) |

(公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構
(企画編集) (公社) 日本水環境学会関西支部川部会
(一社) 近畿建設協会

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

～ちょっと大人の散策ブック～ 〈源流を行く編〉

淀川の源流 高時川・余呉湖 (Takatokigawa・Yogoko)

(発行) 平成26年1月
(発行者) 公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (大手前センタービル4F)
TEL. 06(6920)3035 FAX. 06(6920)3036
<ホームページ> <http://www.bqy.or.jp>
©BYQ, 2014 Printed in Japan

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

～ちょっと大人の散策ブック～

源流に行く編

淀川の源流 高時川・余呉湖

(Takatokigawa・Yogoko)

(公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構
(公社) 日本水環境学会関西支部川部会
(一社) 近畿建設協会



「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構と(公社)日本水環境学会関西支部川部会、(一社)近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることがになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、「源流を行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、それぞれ5、6リーフレットからなる。本リーフレットでは「源流を行く」編として、淀川の源流である高時川と余呉湖を取り上げた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

目次

ねらい・目次

高時川の概要	02
淀川の源流	03
丹生川（高時川上流域）	05
菅山寺とその周辺	08
コラム1 菅原道真と菅山寺	09
花と観音の里“高月町”と高時川の井堰	10
コラム2 雨森芳州	10
余呉湖とその周辺	12
コラム3 田川とカルバート	12
コラム4 余呉湖、高時川、田川の 全窒素と全リン濃度の経年変化	13

(表紙写真／淀川の源流を示す碑)

1 高時川の概要

淀川は大阪府と京都府の境あたりで桂川・宇治川・木津川の三川を束ねて流下し、大阪湾に注ぐ瀬戸内海流域では最大の河川である。その源流は宇治川、瀬田川を遡って琵琶湖に入り、さらに琵琶湖の北東に注ぐ姉川の支流・高時川にあるとされている。

高時川は、滋賀県最北部の福井県で県境・柄の木峠(標高538.8m)に発して南流し、琵琶湖に流入する直前で姉川と合流する。全長は41.4km、流域面積は209km²である。高時川の最大の支流は岐阜県境を源流とする杉野川で、大見集落の下流で合流している。杉野川沿いに岐阜県に抜ける国道303号線が走り、金居原上流の県境には1910(明治43)年に操業を開始し、1965(昭和40)年に閉山した土倉銅山があった。

高時川はその辺りから上流では余呉町に
屬し丹生川と呼ばれ、谷を出て扇状地に
広がる木之本町では馬上川、さらに下流
の沖積平野に広がる高月町では高月川
(または高槻川)、虎姫町では馬渡川と名
前を変え、姉川と合流する長浜市辺りでは
妹川と呼ばれた。高時川流域の地質は主
に中・古生層の丹波層群の砂岩・粘板岩・
チャート・塩基性火山岩(緑色岩)が分布
し、植生ではブナやミズナラなどの落葉広
葉樹林が広くみられる。

琵琶湖の北東部には三方を山で囲まれた盆地に、周囲6.4km、最大水深13.5m（平均7.4m）の小さな余呉湖がある。標高は133mで琵琶湖との標高差（水面落差）は約50mである。琵琶湖と同じく100万～200万年前の断層湖とみられ、古琵琶湖に包含されていたものが、約3万年前に独立したといわれている。



高時川流域と余呉湖を構成する余呉町・木之本町・高月町・湖北町・虎姫町は、2008(平成20)年に長浜市に合併された。(本リーフレットでは、これらの地域を長浜市〇〇町とせずに単に〇〇町と記載した。)

高時川流域図

2

淀川の源流

滋賀県北部の彦根市・長浜市を経て福井県敦賀市に抜ける国道365号線は、かつては**北国街道**と称され、北陸の物資を京都・大阪に運ぶ重要な輸送路であった。国道線は長浜から旧余呉町に入ると、暫くは高時川と並行して流れる**余呉川**に沿って北上し、**椿坂峠**に至る。米原ジャンクションから分岐した北陸自動車道は、しばらく国道線と並行して走るが椿坂峠の手前で敦賀へ向う。国道365号線は椿坂峠を越えると再び高時川流域に入り、最上流の集落となる中河内を経て**栢の木峠**に至る。この間、長さ10kmにもおよぶ活断層である**柳ヶ瀬断層**の真上を走っている。中河内集落の手前には滋賀の名水に数えられている**己知冷水**がある。栢の木峠の西斜面には余呉高原スキー場、東斜面にはベルク余呉スキー場が開設されている。



柳ヶ瀬断層上を走る北国街道



中河內集落



己知冷水



淀川の源の碑（背面）



淀川の源を示す看板



源流と思しき溪流



源流付近のブナ林



避難小屋跡



雪の重みでたわんだ鉄柵とスノーポール

栃ノ木峠の東側にある駐車場の脇に淀川の源の碑が建っている。碑の背面には、旧建設省高時川ダム工事事務所と旧余呉町の連名による、「河川の恵みに感謝して」の文字が刻まれ、碑の傍の看板には、「淀川河口から170kmのこの地が源流である」と書かれている。

淀川の源の碑の上手のブナ林に、淀川源流と思しき渓流が発している。国道365号線は柄の木峠を越えると福井県に入り、大河川九頭竜川の支流である日野川流域を越前武生へ抜ける。

高時川上流域や北国街道沿いの地域は、かつては2~3mに及ぶ積雪で閉ざされた全国有数の豪雪地帯であった。国道沿いには急傾斜の三角屋根の一坪ほどの可愛らしい**避難小屋**がいくつか朽ちかけて残っている。かつては郵便配達夫が吹雪に遭遇した折り一時避難する待避所の跡である。

地球温暖化が危惧されるようになった今では、それほどの積雪に見舞われることはなくなったが、それでも国道の歩道に取り付けられた鉄柵が支柱の間でたわんでいるのは、積雪が尋常ではないことを物語っている。ちなみにスノーポールは道路端の目印である。

丹生川（高時川上流域）

高時川上流域には中河内を最上流として、かつては川筋に沿って半明、鷺見、田戸、小原、菅並へと小さな集落が続いていた。菅並集落の上流には、貯水容量1億7千万トンの近畿地方では最大級の多目的ロックフィルダムである**丹生ダムの建設予定地**がある。水没予定地となった半明から小原までの4集落は、1996(平成8)年に全戸の移転を完了しており、今は無人となり、菅並より先の道路は一般の通行は禁止されている。

しかし、2005(平成17)年に大阪府が利水の取りやめを表明し、京都府などもこれに追随した。2008年には河川整備計画に地方公共団体、地域住民等の意見を反映するために設けられた淀川水系流域委員会が、丹生ダムの必要性を見直し建設中止の意見書を提出した。2009年に民主党政権が発足すると、ダムに頼らない治水へ政策転換され、丹生ダムも検証対象ダムの1つに数えられ、建設計画が凍結された。2012年に政権が自民党に回帰しても検証作業は続けられ、2013年10月に国土交通省(近畿地方整備局)と水資源機構は事業目的を高時川・姉川の洪水調節、下流淀川の異常渴水対策、高時川の流水確保とし、2つのダム案と各目的に対応した代替案(河道掘削や琵琶湖水導水など)をそれぞれの予測経費とともに関係自治体に提示した。3目的の必要性の検討と各代替案の妥当性などの検証が必要で、なお先行きは不透明である。すでに住戸を移転した水没予定地域の元住民(旧余呉町)や長浜市は、早期のダム建設を望している。

この辺りはかつて山椒の産地であったが、病気が蔓延して今は山椒の生産農家はない。道沿いの



丹生ダムのダムサイト



サンショウの木



洞寿院の山門



塩谷の水



整備された丹生川上流



多自然川づくりの妙理川



妙理の里



茶わん祭の館



滋賀県立大学集水域研究施設



胡桃谷の名水

所々の藪にひっそりと生き続ける**サンショウの木**はその名残である。シカ、イノシシ、サルによる農作物被害は、過疎化が進む中山間地の集落に共通する悩みの一つであるが、ピリリと辛い山椒にはサルも手をつけないとのことである。

菅並から上丹生・下丹生の集落の周辺では丹生川が整備され、ダム建設工事用道路、雨量・水位観測所などのダム関係の諸施設が完成している。菅並集落から多自然川づくりで整備された支川の**妙理川**を少し上ったところに**妙理の里**がある。川沿いにいくつかの建物が建設されており、渓流魚(イワナ・アナゴなど)の養殖とつかみ取りや渓流釣り、バーベキューが楽しめ、桜餅等の販売もしている。ただし、閑散としており、今は養魚施設も稼働している様子はない。

妙理川をさかのぼると**夫婦滝**に至るはずだが、丹生ダム関連の道路との合流地点で道は途切れ、滝の確認はできなかった。付近には、絶滅危惧種のイヌワシとオオタカの営巣地があり、その雄姿を待ち構えるアマチュアカメラマンの姿が絶えない。妙理の里近くの山門は、曹洞宗の名刹**洞寿院**への入り口である。洞寿院は1406(応永13)年如仲禪師によって開かれ、修行僧の道場として名高い。**木造観音菩薩立像**は国指定の重要文化財である。寺宝は、その昔、夫婦滝に棲みつき如仲禪師よって済度された龍が残したと伝えられる龍の玉である。山門の右横には名水・**塩谷の水**がある。

上丹生には、おおむね3年に一度行われる**丹生神社**の大祭茶わん祭にちなんだ**茶わん祭の館**の大きな建物が、整備されたバイパス道路沿いに建てられている。祭りでは滋賀県の無形文化財に指定されている稚児の舞、花笠踊り、神輿の渡御が行われる。茶わん祭りの館には、山車のレプリカをはじめ、祭にまつわる展示がされている。あわせて、

余呉の地勢や風土、人々の暮らし、歴史や伝説などがわかりやすく展示されており、この地方独特の余呉型民家と言われる雪深い余呉の風土にあわせて発達した民家も復元・展示がされている。

旧上丹生小学校の角を西に進んだ奥に、現在は戸数10戸余りになった摺墨(またはするみ)集落がある。集落のはずれに森林生態学や水文学の実習やフィールド研究の基地・滋賀県立大学集水域研究施設がある。上丹生から丹生川に沿って下ると、県道285号わきの道路斜面から**胡桃谷の名水**が湧き出ている。名水を示す看板がなければ通り過ぎてしまうほどの小さな落ち口だが、遠方からこの名水を汲みに来る人も多い。

上丹生の集落から約1km丹生川を下ると、道路をはさんで**森林文化交流センターとウッディパル余呉、赤子山スキー場**がある。森林文化交流センターは、森と湖をイメージした木組トラス構造の建物で、地元産のスギ、ヒノキ、トチなどが使われ、地域住民のコミュニティーセンターとなっている。ウッディパル余呉には、丹生川沿いの敷地にキャンプ場やグランドゴルフ場が整備されている。赤子山スキー場は家族向きの小さなスキー場で、レストランと売店は郷土資料、ハイキング情報がそろったインフォメーションセンターの役割も果たしている。

高時川の最大の支流**杉野川**上流には、どこから見ても横たわって見えることからその名がついたという**横山岳**(1,132m)があり、地元有志によって登山道・山小屋も整備されており、四季を通じてハイカーで賑わっている。金居原集落を通りすぎて橋の傍から未舗装林道を暫く登ると、赤い欄干の橋が見える。そのたもとに飲むとたちどころに男性が元気になると言う名水・**夜這いの水**がこんこんと湧出し、谷の上流には**滝の谷の滙**がある。

林道をさらに進み白谷川登山口からの林道との出会いを過ぎると白谷本流コースの登り口がある。ここから頂上に向かう道をたどると、お経を書写する僧が身を清めたとされる**経の滙**に出会う。さらに30分ばかり登ると御神酒を入れる銚子を洗い清め**五銚子の滙**が5段に分かれて優雅に落ちている。



ウッディパル余呉内のよご子どもミュージアム



赤子山スキー場



横山岳



夜這いの水



経の滙



五銚子の滙

4

菅山寺とその周辺

赤子山スキー場を抜けて林道赤子線を上っていくと駐車場があり林道は終点になる。ここからNGOによって再生されているブナの植林地を15分ばかり歩くと、人気の少ない山中に静かにたたずむ菅原道真公ゆかりの**菅山寺**に至る。山門前には菅公お手植えと伝わる樹齢1,000年といわれるケヤキの大木が両側に並んで立っている。本堂の近くには国の重要文化財に指定されている鋳造の**梵鐘**がある。本堂から少し下ると、菅公姿見の池といわれる**朱雀池**があり、傍にはご神体として菅公の像を祀る**近江天満宮**がひっそりと佇んでいる。



菅山寺



梵鐘



ケヤキの大木



朱雀池

菅山寺の表参道は北国街道に沿った坂口集落にある。集落に入ると近江天幡宮の**大鳥居**が見える。これをくぐって2kmの道のりを上ると菅山寺に至る。



尾根近くには忽然と立つブナの大木があり、余吳湖を垣間見ることができる。大鳥居から100mばかり上った左手に、菅山寺の寺宝を納めた里坊弘善館が建ち、左手に梅の花をもち漢詩を詠む道真11歳の稚児天神像や十一面觀音像などが納められている。大鳥居の横手には、江戸時代から北国街道を行き来する人々に親しまれた昔ながらの麦芽を原料とした水あめを製造直売する店がある。女性向け旅雑誌に紹介されたことから、一時は多くの観光バスが乗り付けるほどの有名店になつたが、今は落ち着いているようであった。

菅山寺にはもう一つ参道がある。その登り口となる大見には、作家井上靖の小説に“乙女の觀音さん”として紹介される平安期の木造十一面觀音像(国の重要文化財)をもつ真言宗の医王寺と神像三体(国の重要文化財)のある大見神社がある。



コラム① 菅原道真と菅山寺

菅山寺はもとは龍頭山大箕と呼ばれ、764(天平宝字8年)に初代照檀上人が孝謙天皇の勅命を受けて建築されたと伝えられる真言宗の寺である。麓の川並村に生まれた菅原道真(菅公)は、幼少の折大箕寺で勉学に励んでいたが、請われて菅原是善卿の養子となり京に上ったとされる。長じて宇多天皇の勅命を受けて国家隆盛の祈願のために大箕寺を訪れた後に、天皇の勅許を得て3院49坊からなる寺院として再建したことから、菅公にちなんで菅山寺と改められた。菅公は、朱雀池に自分の姿を映して古梅の大木に自らの等身大的像を彫刻したとされ、菅公死去後にこの像を菅山寺の鎮守として祀ったのが近江天満宮の始まりとされている。朱雀池は映画「蟲師」(2007年)でロケが行われた場所でもある。



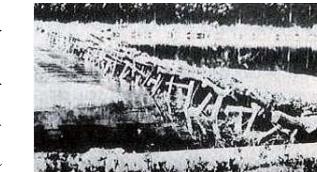
〔菅原道真11歳の稚児天神像〕

菅山寺の中興の祖である専暁は、1275年に宋から宋版大藏経七千巻(重要文化財)持ち帰り経堂に納めた。しかし、徳川家康の命により東京芝の増上寺に移され、その代償として菅山寺には50石の寺領と今も幽玄な山中にその面影を残している周辺の山林が与えられた。現在この一帯は余呉町の自然園に指定されており、ブナ・ミズナラが茂っている。

5 花と觀音の里 “高月町” と高時川の井堰

丹生川は木之本町に入ると杉野川と合流する川合からは高時川と名前を変える。この辺りは川幅が広く、堤外地(高水敷)はかつては桑畠として、現在は畠として利用してきた。また、この辺りは高時川が形成する扇状地の扇頂にあたり、往時、下流の村人は井明神橋をはさんで最上流の餅の井堰をはじめとする6つの“井”と呼ばれた井堰から、田に水を引いた。そのため高時川が渇水時にはしばしば“水争い”が繰り広げられたと言う。

現在、井堰は総て井明神橋の手前で、近代的な高時川頭首工に合口されている。頭首工から高時川幹線水路へ取水され、いくつもの用水路に分かれて高月町・湖北町の水田に灌漑水を供給している。井堰の名残はないが、わずかに馬上井堰のいわれを記した大きな碑が、頭首工の近くの川端の水田の中にぽつんと建っている。



餅の井堰



現在の高時川頭首工



馬上井堰のいわれを記した大きな碑

コラム② 雨森芳州

雨森芳州(1668~1755年)は江戸時代中期の新井白石、室鳩巣らと同門の儒学者で、木下順安の五大高弟の一人として木門五先生と呼ばれた。江戸時代の鎖国時にあって22歳で対馬藩に仕え、ハングルと中国語を学び、朝鮮との善隣外交に尽力した。外交の基本を『誠信外交』つまり「外交の基本は真心の交わりである」として、お互いに欺かず、争わず、真実を以って交わることを唱えてこれを実践し、その思想は現代にあっても燐然と輝く不朽の提言である。芳州は晩年になつても二万首の詠草を成し遂げるなど生涯学習の先駆者とも言える向學心をもつ人物であった。

東アジア交流ハウスと名付けられた木造書院風の美しい芳州庵はその意志を今に継



〔雨森芳州の像〕

いで生家跡に建設され、韓国を主とする東アジアとの草の根国際交流の拠点となることを願って運営されている。館内には芳州の遺品とともに朝鮮通信使の文献・資料が展示されており、韓国からの修学旅行生も訪れるという。

高月町では、集落内を通り抜ける用水路に手作り水車や花筏が置かれ、錦鯉が悠々と泳いでいる。1991(平成3)年には農林水産省と旧建設省による「花のまちづくりコンクール」で最優秀農林水産大臣賞を受賞し、湖国百景にも選ばれている美しい里である。雨森地区の一角に、大ケヤキに囲まれた**雨森芳州庵**がある。

湖北地方には数多くの観音菩薩像をまつる社寺があり、観音の里と呼ばれている。高月町内の**観音の里歴史民俗資料館**では、仏教文化とその信仰の厚さを物語る多くの観音像や仏像を紹介し、特に十一面観音に関する資料の展示が多い。

観音の里歴史民俗資料館の近くにある**渡岸寺觀音堂**には日本に七体ある観音の一つである国宝**十一面觀音**が安置されている。天平時代の泰澄の代表的な仏像で、眉から鼻にかけての秀麗な線、柔く結ばれた美しい口元、そして肉感的な量感を与える豊麗な姿態は村人に渡岸寺の観音さまとして厚い信仰を集めてきた。

渡岸寺から国道365号線に出て、高時川の**阿弥陀橋**を渡り、直ぐ左手の田んぼの中を通る道に入り、看板に従って山沿いの道へと進むと天皇の水の石碑が見える。ここから林の中を数十m入った所にこの地の小字名をとった名水・**天皇の水**が石灰岩の穴から湧き出している。

高時川は姉川と合流して琵琶湖に注ぐが、姉川河口には琵琶湖総合開発事業による水位低下の補償事業として建設された湖産アユの**産卵用人工河川**があり、10月には人工ふ化した数十万尾のアユの稚魚がここから琵琶湖へ泳ぎ出す。

姉川の上・中流域は湖北の米作地帯である。下流では降水量が少ない年や灌漑水の多い春から夏にかけて河川流量が極端に減少し、しばしば河川水が干上がって断流する。これは**瀬切れ**と呼ばれている。

合流点近くの**錦織橋**を渡ると、田川カルバート記念のミニ公園がある。田川は高時川と姉川に挟まれた三角地帯を流域とする全長約10kmの小河川で、現在は鉄筋コンクリート製のトンネル“カルバート”で姉川をくぐり、そのまま田園地帯を一直線に西流して琵琶湖に流入している。



6 余呉湖とその周辺

古くは琵琶湖を大江、余呉湖は伊香のしづがたけ江と称され、古戦場として知られる**賤ヶ岳**(421m)によって琵琶湖と隔てられている。別名鏡湖とも呼ばれ、その名のとおり波ひとつない湖面に周囲の山々を映し出している。湖畔には、三保の松原、丹後峰山と並ぶ日本三大天女伝説の一つとして有名な天女が羽衣を掛けたとされる**衣掛け柳**がある。現在の柳は、明治の台風で倒壊した天女ゆかりの北野神社から移された二代目である。湖北部の湖底からは2,000年前の埋没林が発見されるなど神秘の湖のイメージが色濃く、水上勉の小説「湖の琴」(1966(昭和41)年)の舞台にもなった。

余呉湖には、余呉湖と琵琶湖にのみ棲



余呉湖と衣掛け柳

息するイワトコナマズをはじめ、ワカサギ、フナ、コイ、ウナギ、ナマズなどの魚類が多数生息し、夏には水面近くをフナの大集団が回遊する姿が見られる。冬には多くの水鳥が飛来し、漁協の湖畔はワカサギ釣りで賑わい冬の風物詩になっている。湖畔には、遊歩道や**野外活動センター**などの施設も完備されている。

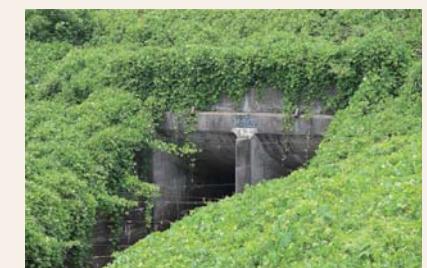
湖の東岸には松尾芭蕉の門下、斎部路通、西岸には近代俳句の巨匠山口誓子の俳句を刻んだ句碑が建立されている。

コラム ③ 田川とカルバート

江戸末期までは、田川は落合付近で姉川に合流していた。そのため大雨の度に、水嵩が増した姉川と高時川の洪水が田川に逆流し、上流域の集落に度々被害を与えた。幾度となく周辺村落に改修を願い出るがかなわず、ようやく幕末の1860年にびわ町錦織で天井川となった高時川を木製の暗渠を掘削していくが、その後に新川を開削して琵琶湖に直接放流するという田川伏樋工事が行なわれた。明治になるとオランダから招聘されたかの有名な水工技師デ・レークは、滋賀県の要請に応えて現在の形にほぼ近い鉄筋コンクリート製のカルバート改修案を提案した。

工事は1883年に着工され1884年に鉄筋コンクリート製のカルバートが完成した。その後1929～1930年には継ぎ足し工事が行わ

れた。戦後になって1963～1966年に大規模な改修工事が行われ、毎秒109m³の疏通能力を有する並列2連の延長216m、幅4.2m、高さ4.2mの現在のカルバートが完成した。集落の中には新川の開削によって水源を絶たれた周辺集落への補償工事の顛末を記した養水の碑が建てられている。



〔田川のカルバート〕

余呉湖は、かつては周辺の溪流と余呉川の伏流水が流入するだけの完全に閉鎖された自然湖であった。しかし、1958(昭和33)年には灌漑と洪水被害軽減のために余呉川導水路と余呉川放水水路が掘削された。1970(昭和45)年以降に灌漑用水として琵琶湖の水をポンプアップするためのトンネル(揚水隧道)と揚水機場が設置されたことでダム機能が付加され、余呉ダムとなっている。

織田信長の死後、羽柴秀吉と柴田勝家が雌雄を決すべく1582(天正10)年に激突した古戦場として知られる賤ヶ岳からの眺望は『新雪賤ヶ岳の大観』として琵琶湖八景の一つに数えられている。

麓と山頂とはリフトで結ばれ、余呉湖側には柴田勝家の砦跡群が一望できる。また、山頂には合戦にちなんだ武将の像や戦跡碑が建立されている。



賤ヶ岳



武将の像



余呉湖

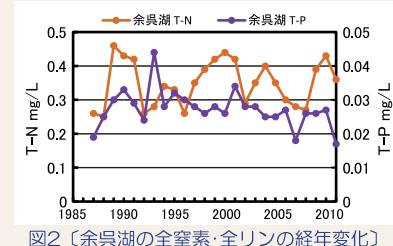
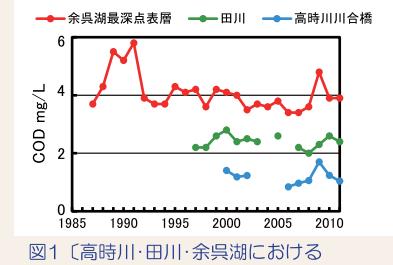
コラム④ 余呉湖、高時川、田川の全窒素と全リン濃度の経年変化

高時川と姉川合流前の福橋と田川におけるCODの経年変化を図1に示す。高時川福橋地点のCODは、0.8~1.8mg/Lと清冽な水質を保ち、田川は2.0~2.8mg/Lと2倍程度高いが、いずれも横ばい傾向である。

完全な閉鎖湖であった余呉湖は、1932年には透明度が8mという調査記録が残っているが、ダム化がされ余呉川や琵琶湖の水が流入したことで富栄養化が進み、1977年以降、淡水赤潮やアオコの発生が頻発するようになった。富栄養化対策として、農業集落排水施設などの生活排水処理が進められると共に、湖内には間欠式空気揚水筒(レークリフター)や深層曝気装置も設置されている。

1987~2011年度の余呉湖最深部地点における水質の経年変化を図1~2に示す。CODは全体として減少傾向を示し、全窒素と全リン濃度の年変動は大きいが、CODと

同様に概ね減少傾向が認められ、水質汚濁対策の効果が伺われる。



麓の大音・西山地区は昔から繭の糸取りが盛んであった。大音集落の糸取り資料保存館では伝わる糸取りの技術や道具の展示がされており、希望すれば昔ながらの繭の糸取り作業を実演してくれる。糸取り資料保存館の隣には伊香臣命を祭神とする伊香具神社がある。伊香臣命は、天から舞い降りて白鳥に姿を変えて余呉湖で水浴びをしていた8人の天女の姉妹のうちの末妹の羽衣をとつて隠し、帰れなくなった天女を妻とした伊香刀美と伝えられ、伊香地方に栄えた豪族伊香連の先祖と言われている。

余呉川河口付近から湖岸道路を姉川方向へ北上すると、湖北町水鳥公園がある。この辺りは形のよいヤナギが生い茂る地図にはないいくつかの島並を全景にして、竹生島が見渡せ、とりわけ比良山系に落ちる西日が美しく、日本の夕陽100選にも選定されている。国の天然記念物のオオヒシクイや、コハクチョウ、カツツブリなど四季それぞれに異なった野鳥を観察することができる。

この公園の一角にある琵琶湖水鳥・湿地センターは、琵琶湖がラムサール条約の登録湿地に指定されたことを契機に設置された学習・研究施設で、大型マルチビジョンに湖岸の水鳥の生態が映し出されている。また、湖北野鳥センターでは、備え付けのフィールドスコープや双眼鏡で年間を通じてバードウォッチングを楽しむことができる。水鳥公園には水鳥の形の建物が特徴的な道の駅湖北水鳥ステーションがあり、湖北の特産品の販売やレストラン、展望台がある。



糸取り資料保存館



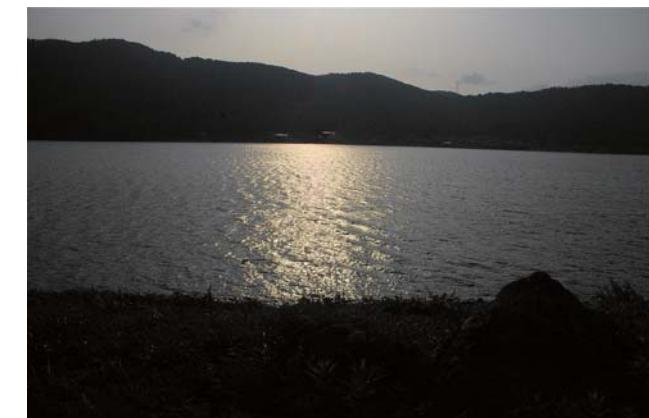
伊香具神社



(右) 琵琶湖水鳥・湿地センター
(左) 湖北野鳥センター



道の駅湖北水鳥ステーション



夕日に映える余呉湖